

## 北海道の生活文化と羊毛

市立名寄短大 ○ 青木 香保里

目的 1993年度より実施されている中学校「家庭生活」領域では、「家庭生活と地域との関係について考えさせる」ことが学習内容として取り上げられている。北海道の生活は、衣食住および生活全般において自然や気候風土と密接な関連があり、それが地域の特色となる生活文化の一端を形成する要因だと考える。自然や気候風土に規定されつつ、社会の動きに影響されながら家庭生活が営まれ、北海道という地域特有の生活文化が生み出され、継承され発展している事実は「家庭生活」領域の学習内容に合致すると考えた。そこで、「家庭生活」領域における家庭生活と地域の関係を捉えていけるような教材開発を試みるために羊毛に注目した。北海道の開拓と共にひつじの飼育が本格的にすすめられ、羊毛は、時代の変化と共にその利用目的と形態が連動しており、羊毛と関わってきた生活史を探り学ぶ過程で、抽象的な概念である家庭生活と地域の関係について捉えていくことが可能と考えた。地域にある題材を生かした中学校「家庭生活」領域の教材開発を試みるとともに、副読本の作成を目的とする。

方法 各種統計資料、北海道に関する各種文献、等の文献をもとにして事実関係の整理をするとともに、家庭生活と地域の関係をとらえていくための内容を、教材としての観点からその妥当性について検討する。

結果 教材でつけたい認識を「産業構造とくらしの変化」「生活改善の要求と取り組み」「技術と道具」等とし、ホームスパンという形で家庭内に羊毛が取り込まれた開拓期から昭和30年代に焦点をあてる。また今日の「まちおこし」の取り組みから生活文化を考える。